

滋賀文教短期大学 子ども学科「教育目的」、「教育目標」、「3つのポリシー」の相関図

学校法人 松翠学園			
○教育理念 「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である。」			
○教学に関する方針			
滋賀文教短期大学			
○建学の精神 「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成			
子ども学科			
○教育目的 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探求心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材を養成することを教育目的とする。			
教 育 目 標	学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受け入れ・実施の方針 (アドミッション・ポリシー)
①確かな倫理観と使命感を規範に、保育・教育の課題解決や自己の成長に取り組むことができる主体性を身につける。	【主体性】【倫理観・使命感】 ≪主体性及び倫理観・使命感に関する学修成果を身につけている。≫ 本学の学修で獲得した力 (DP に定める力) をもって社会に貢献するために、 主体性 は最も重要な力です。自ら挑戦し、成功や失敗の経験を繰り返すことで生涯成長し続けることができます。 また、主体的な行動の規範になるのは、人としての 倫理観 と、保育者・教育者としての 使命感 です。 <学修成果（できるようになること）> ① 自らの意思で考え行動することができる。 ② 生涯にわたり、学び続ける姿勢を持つことができる。 ③ 倫理観と保育者・教育者としての使命感を持つことができる。	<編成の方針> 子ども学科は、学生が学位授与の方針を達成し、学修成果を獲得できるよう、次のような教育課程を編成します。 ① 学修や社会参画への 主体性 及び保育・教育への 使命感 を向上させるための科目を設置し、必修とします。 ② 建学の精神に基づく本学が目指す人材像の理解と、大学で学修するための基礎的な 知識・技能 や態度を身につけるため、1 年次春学期に初年次教育科目を設置し、必修とします。 ③ 保育及び幼児教育の専門的 知識・技能 を修得するための「保育士養成コース」、小学校教育の専門的知識・技能を修得するための「小学校教諭養成コース」に、各専門科目を段階的・体系的に設置します。 ④ 職業人としての基礎的な力を身につけるため、リテラシー能力や基礎的な ICT 技能を学ぶことのできる科目を設置します。 ⑤ 地域課題の理解と、課題解決を通した学修成果の総合的な獲得のため、「基礎力プログラム」を設置し、必修とします。 <実施の方針> 子ども学科は、学生が学位授与の方針を達成し、学修成果を獲得できるよう、次のように教育に取り組みます。 ① 主体性 と自己肯定感が高められるように指導します。 ② 学修成果を発揮する基礎となる適切な 倫理観 及び 使命感 を高められるように指導します。	<受け入れの方針> 子ども学科は、保育・教育などに興味があり、将来は保育・教育の分野で活躍したいと考える人に入学してほしい学科です。 子ども学科では、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭という、保育・教育に関する専門職業人として社会に貢献するための専門的知識・技能を身につけることを目的としています。そのため、専門職業人として求められる力や、キャリア形成に役立つ力を養成するための教育課程が設定されています。 このようなことから、子ども学科では以下の能力や態度を身につけている学生を受け入れます。 ① 子どもに対する愛情と、保育・教育の学びに対して意欲・関心を持っている人〔意欲・関心〕 ② 保育・教育を学ぶための基礎学力（特に「国語」）を身につけている人〔知識・技能〕 ③ 目標に向かって課題を明らかにし、改善に向け主体的に取り組む意欲を持っている人〔主体性・課題発見力〕 ④ 実践的な学びや、学び合いの基になる基礎的なコミュニケーション力を身につけている人〔表現力〕 <実施の方針> 子ども学科では、次の力を多面的・総合的にはかることを重視した選抜方法を設定し、その方法と配点は募集要項等に示します。 これらの人材を広く求めるために、多様な入学試験を実施します。 ① 滋賀文教短期大学の建学の精神を体現できる素養
②保育・教育に関わる専門的な知識・技能を身につける。	【専門性】【知識・技能】 ≪専門性及び知識・技能に関する学修成果を身につけている。≫ 保育所保育指針、幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領に基づく専門的な知識・技能等の、学内外で修得する 専門性 をもって、子ども一人ひとりの可能性を引き出す保育・教育を実践することができます。 また、保育・教育に関わらず幅広い 知識・技能 は、人間的な成長や専門性を生涯高め続けるための基礎となります。 <学修成果（できるようになること）> ・保育士養成コース		

		① 保育・教育に関する基礎的・基本的な知識・技能を理解することができる。 ② ピアノに関する基礎的・基本的な技能を理解することができる。 ③ 子どもの発達に関する基礎的・基本的な知識を理解することができる。 ④ 子どもや家庭に対する相談や援助の方法を理解することができる。 ⑤ ICT を初歩的に活用することができる。 ⑥ 社会の保育・教育に関するニーズや課題を理解することができる。" ・ 小学校教諭養成コース ① 教育に関する基礎的・基本的な知識・技能を理解することができる。 ② 基礎的な指導力や授業方法を理解することができる。 ③ 子どもの発達に関する基礎的・基本的な知識を理解することができる。 ④ 子どもや家庭に対する相談や援助の方法を理解することができる。 ⑤ ICT を初歩的に活用することができる。 ⑥ 社会の教育に関するニーズや課題を理解することができる。	③ 演習科目を中心に、体験的な学修を通した教育を行います。また、地域と連携し、実践的な学修機会の提供に努めます。 ④ 自然豊かな本学の環境を生かした教育に努めます。 ⑤ 学修を通し身につけた総合的な力を発揮させながら成長していく「基礎力プログラム」においては、子ども学科の全専任教員が関わり合いながら、プログラム全体を検討し、指導します。 ⑥ 音楽関係科目においては、知識・技能を着実に修得できるようにするため、複数の教員で指導します。 ⑦ 授業の質の向上と学修支援のため、ICT を積極的に活用します。 ⑧ 思考力・判断力を高めるため、保育・教育現場の事例に基づいた教育を実践します。 ⑨ 表現力を高めるため、学修成果をアウトプットする機会を積極的に設けます。 ⑩ 課題発見力や課題解決力を高めるため、PDCA の学修サイクルに基づいた教育を実践します。 ⑪ コミュニケーション力や協働力を高めるため、グループワークや発表などの実践を取り入れながら指導します。 ⑫ 学修成果の着実な獲得を支援するため、「基礎力プログラム」と音楽関連科目においては補習の時間を設置し、指導します。 ⑬ 学修の質保証と社会的責任を果たすため、実習科目には履修基準を設けます。 <評価の方針> アセスメント・プランに基づき、適正に評価します。詳しくは、アセスメント・プランを参照してください。	② 子ども学科の入学受け入れの方針 ③ 学力の三要素（(1)知識・技能、(2)思考力・判断力・表現力、(3)主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）
③適切な保育・教育を行うための思考力・判断力と、それらを表現できる能力を身につける。	【思考力・判断力】【表現力】 ◀思考力・判断力及び表現力に関する学修成果を身につけている。> 課題に対して物事を多面的且つ論理的に考えることができる思考力と、適切な判断力によって、子どもにとって最良の保育・教育を実践することができます。 また、豊かな表現力によって、質の高い保育・教育の実践のみならず、子どもや保護者との良好なコミュニケーションを築くことができます。 <学修成果（できるようになること）> ① 課題に対して、物事を多面的且つ論理的に考えることができる。 ② 子どもの健康と安全に必要な行動を判断することができる。 ③ 保育者・教育者として豊かに表現することができる。			

			④保育・教育の課題を適切に捉え、課題解決に向けて着実に実践できる力を身につける。	【課題発見力】【課題解決力】 ≪課題発見力及び課題解決力に関する学修成果を身につけている。≫ 子ども一人ひとりの可能性を引き出す保育・教育を実践するためには、子ども自身に関する情報のみならず、家庭のニーズや子ども達を取り巻く様々な環境を知ることのできる課題発見力と、解決に向かって適切な手段を選択し粘り強く解決に取り組んでいく課題解決力が不可欠です。 また、保育・教育内容や自己の成長に対して常に向上心を持ち、課題や改善点を発見及び分析できる課題発見力と、その課題や改善点に対して、適切な解決策をもって着実に改善に取り組むことのできる課題解決力によって、質の高い保育・教育を実践とともに、自身も生涯学び続け成長することができます。 ＜学修成果（できるようになること）＞ ① 自己の成長や保育・教育の学びについて向上・改善に努めることができる。 ② 現状を分析し課題を明らかにしようとすることができる。 ③ 課題解決や改善に粘り強く取り組むことができる。		
			⑤他者と良好な人間関係を構築し、課題に対して協働できる能力を身につける。	【コミュニケーション力】【協働力】 ≪コミュニケーション力及び他者と協働する力に関する学修成果を身につけている。≫ 言語のみならず非言語を含めた「伝える力」、理解するためだけではなく共感から愛情を育む「聴く力」、相手を尊重する「多様性を受け入れる態度」等のコミュニケーション力によって、子どもや保護者との信頼関係を築くことができます。 また、それらのコミュニケーション力と、他者に働きかけチームとして成果を上げることのできる協働力によって、個人では解決できない課題に対しても立ち向かい、質の高い保育・教育を実践することができます。 ＜学修成果（できるようになること）＞ ① 社会人として相応しい言動をとることができる。 ② 相互理解や共感に努めながら対話することできる。 ③ 課題に対して多様な人々と協働することができる。		